

# 館報

令和5(2023)年

---

日本大学文理学部資料館

---

## 目次

I 資料館の沿革	2
II 主な収蔵資料	3
III 資料の収蔵・保存・修復	4
IV「学芸員コース」の実習	4
V 調査・研究と刊行物	5
VI 資料館ホームページとデジタルミュージアム	5
VII 展示会活動	6
VIII イベント活動報告	10
IX 学芸員調査研究活動	10

## I 資料館の沿革

日本大学は、明治22(1889)年に日本法律学校として誕生し、わが国の近代国家の成立に向け法典編纂に尽力した、時の司法大臣・山田顕義(1844－1892)を学祖とします。その後、明治36(1903)年に日本大学と改称され、現在に至っています。

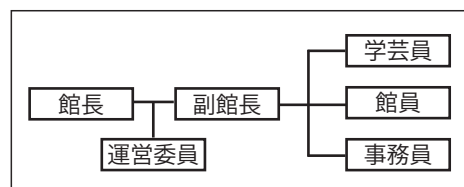
日本大学文理学部は、明治34(1901)年にその前身となる高等師範科(のち高等師範部)が、日本法律学校に設けられたところより始まります。その後、法文学部、文学部と進展を重ね、昭和33(1958)年に文学部に教養部を吸収し、理系の学科等を加え文理学部としてスタートしました。現在の文理学部は、人文系・社会系・理学系の3系統18学科から構成される複合学部として発展を続けており、平成23(2011)年には学部創設110周年を迎えました。

日本大学文理学部資料館の沿革は、文理学部の歴史の上に成り立っています。文理学部は120年近い歴史の中で、研究や教育のため

に文学、歴史学、考古学、地理学、自然科学に関する諸資料を収集し、さらに保管や展示、調査・研究を継続的に行ってきました。当館は、これら多年にわたり収集されてきた諸資料を学生、教職員及び一般の利用に供することを目的として、平成18(2006)年4月1日に設立され、平成28(2016)年には創設10周年を迎えました。

また、当館は平成19(2007)年3月29日付で、東京都教育委員会より博物館相当施設の指定を受けています(『東京都公報』第13915号、東京都教育委員会告示第30号)。

資料館の組織



日本大学文理学部資料館は文理学部の附属機関です。

## II 主な収蔵資料

当館では、文献資料・考古資料・地図資料をはじめとして諸分野に関する資料を保存し、展示等を通して広く内外に公開しています。また、さらなる継続的な収集活動を進めており、収蔵資料の総点数は約2万5000点以上を数えます。

『枕草子』  
天正本  
上・中・下  
写本3冊  
平安時代に  
宮中に仕  
えた女房で  
ある清少納



言が著した随筆の写本です。清少納言自身が記した原本は、存在が確認されていませんが、これは、現在4系統ある『枕草子』の諸本のうち、三巻本と呼ばれる系統の写本です。「天正本」という通称は、写本の奥書に、「申請楊明御本写之／天正十一年二月八日令校合畢」とあることからです。下巻の最後、白紙の部分に、中邨秋香（1841-1910：国文学者、歌人）から武藤元信（1854-1918：国文学者、枕草子研究者）へ、この写本を献呈した時の辞が、署名と朱角印付きで記されています。なお、本写本は、昭和10（1935）年に文部省から重要美術品の認定を受けています。

『小式部』 写本 1冊

『小式部』は室町時代末に成立したと推察されている御伽草子<sup>おとぎぞうし</sup>※で、平安時代の歌人である、小式部内侍（和泉式部の娘）が詠んだとされる和歌を題材とした説話を集めた、歌人伝説物語です。

当館収蔵品は、小式部のみの物語で構成される別本系統の本文を有し、奈良絵と呼ばれる挿絵が7枚あります。奈良絵には、泥絵具を用いた素朴で典型的なものや、金銀を多用した<sup>ごくさいしき</sup>極彩色の土佐絵風のものがあ

※御伽草子：室町時代から江戸時代初期にかけてつくられた短編の物語草子の総称。



人物埴輪（茨城県筑西市 女方古墳群出土）

古墳時代、古墳造りとともに墳丘に樹立される埴輪も全国へ広がりました。埴輪には大きく区分して円筒埴輪と、形象埴輪（人物、動物、家形、器財等の種類）があります。片手をあげている人物埴輪は、近年の発掘調査と研究から、馬形埴輪とセットになる馬曳きを表わしたものとも考えられ、手をあげているのは馬の手綱をひく姿と思われます。



縄文土器（青森県出土（尾崎元春氏寄贈）・岩手県御明神遺跡出土）

縄文時代の集落遺跡からは必ずと言っていいほど土器が出土します。土器は、生活の必需品として使われていた物でした。当館収蔵の考古資料には、受贈されたものや、発掘調査によって収集された東北地方出土の縄文時代晩期の土器があります。土器には様々な形態がありますが、こちらの土器は小形の鉢に高台を取り付けた台付鉢です。



### III 資料の収蔵・保存・修復

収蔵資料の管理は、博物館等の施設において重要な役割の一つです。当館収蔵資料は、主に和書等の文献資料と、地図資料・考古資料になります。当館ではその資料の材質ごとに収蔵する場所を変えており、各々の資料にとって最適な方法で保存しています。

文学・歴史学・地理学等の和書をはじめとして、文献資料や地図資料は紙や絹等で出来ています。それらは温湿度の影響を比較的受け

やすいために、24時間空調管理の貴重書庫に保管しています。考古資料は本学の専門教員の指導の下、保管施設にて管理しています。

また当館では、収蔵資料をより良い状態で後世に受け継ぐために、専門の修復業者と協議し資料の修復も行っています。資料の損傷状況（亀裂・虫損・糊離れ・剥落等）を確認し、修復の緊急性や展示と研究における活用頻度等を考慮して、順次修復を実施しています。

修復資料		
資料群名	資料種別	資料名
古橋廣之進氏関係資料	写真	力泳する古橋選手 昭和23年度アサヒスポーツ賞（第1回）
古橋廣之進氏関係資料	写真	スタート直後の古橋選手
古橋廣之進氏関係資料	写真	女子学生と古橋先生
古橋廣之進氏関係資料	賞状	古橋選手最初の表彰状
古橋廣之進氏関係資料	写真	中高生を指導する古橋選手
古橋廣之進氏関係資料	写真	日大碑文谷プールサイドの古橋選手ら
遠藤幸雄氏関係資料	写真	東京オリンピック表彰式
遠藤幸雄氏関係資料	写真	スタンドの遠藤先生
遠藤幸雄氏関係資料	賞状	メキシコオリンピック賞状
	紙本	住吉物語 上
	紙本	住吉物語 中

### IV「学芸員コース」の実習

文理学部には、博物館業務にたずさわる学芸員の資格を取得できる「学芸員コース」があります。当館の展示室は、コースを履修する学生の実習の場としても活用されています。実習では、展示会の企画・準備の補助や、展示室の受付対応・展示解説・展示室内の環境整備等を行います。

また、当館は博物館相当施設の指定を受けており、別途、館務実習の受入れを行っています。



特別教室での実習風景



展示室での実習風景

## V 調査・研究と刊行物

当館では、各展示会の企画・準備において、展示資料の調査・研究を行っています。これらの活動は、本学の教員及び大学院生等の協力を得ることで成り立っています。

これら調査・研究の成果は、資料解説文が記載された展示パネルやキャプションだけでなく、展示室で無料配布している図録・リーフレット・パンフレット等の刊行物を通じて提供しています。また、当館では毎年、年報(当データ)をデジタル公開しており、前年度に開催した展示会やイベント等の活動報告を行っています。



過去の展示図録の一部



資料館パンフレット

## VI 資料館ホームページとデジタルミュージアム

ホームページでは、館の概要・沿革や展示会の案内等がご覧いただけます。また当館では、収蔵資料台帳のデータベース化、及びデジタル資料の作成とその管理・運用を推進しています。平成23(2011)年6月から、文理学部資料館「デジタルミュージアム」にて、一部収蔵資料のデジタル画像の一般公開を始めました。現在、公開している資料は以下の通りです。当館ホームページとあわせてご覧ください。

1. 二神コレクション(絵葉書)：二神照夫氏(1932-2016)が蒐集した戦前期の「満洲国」に関する絵葉書。中国黒竜江省牡丹江に関する絵葉書が中心。
2. 青地コレクション(絵葉書)：青地清彦氏(1919-1945)が「満洲国」の地質調査(1939-1941)に向かう過程で購入した、朝鮮と「満洲国」各地の絵葉書。
3. 考古資料：日本大学文理学部所蔵の一部

を公開。

4. 亜東印画輯：戦前期に日本人が撮影した、中国・朝鮮半島・モンゴル地域等の自然風景・歴史的建造物等の写真を収めたアルバム。



「日本大学文理学部資料館ホームページ」

<https://chs.nihon-u.ac.jp/>

[campus-life/kyogaku-s/museum/](https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/museum/)



「デジタルミュージアム」

<http://ahj.chs.nihon-u.ac.jp/dm/>

## VII 展示会活動

日本大学文理学部資料館では、これまで平成18(2006)年6月に展示会「日本の書物かたち・とじかた」を開催して以来、年に3回から5回ほどの展示会活動を継続的に実施しています。

展示会のテーマは、大学・学部史をはじめとして、国文学・歴史学・地理学・自然科学等多岐に及び、多種多様な学科をもつ文理学部の特色を活かしています。また、展示会にあわせてギャラリートークや特別講演会等のイベントも企画し開催しています。

日本大学文理学部資料館展示会

# はじめての 文理学部 & 資料館 2023

「学生帽」

「大講堂落成記念絵葉書」

**2023年  
4月1日(土)  
～4月28日(金)**

開館時間：10:00～17:00  
(土曜日は13:00まで)

休館日：日曜日

**入場無料**

**展示概要**  
文理学部には、前身の高等師範科・法文学部・予科文科を含めて120年近い歴史があり、その間に研究、教育のための資料として、文学、歴史学、考古学、地理学、自然科学に関する資料を収集し、その保管・研究を行なってきました。文理学部資料館は、それら多年にわたって収集されてきた諸資料を教職員、学生及び一般の利用に供することを目的として設立されました。  
本展では、文理学部の歴史と貴重な所蔵資料を紹介し、お気軽にご来館下さい。

会場：日本大学文理学部資料館 展示室 (図書館1階)  
主催：日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

日本大学文理学部資料館  
Nihon University College of Humanities & Sciences MUSEUM

### 【展示会名】

はじめての文理学部&資料館2023  
主催：日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

### 【開催期間】

令和5年4月1日(土)～4月28日(金)  
(24日間)

### 【展示会の概要】

本展示会では日本大学文理学部の歴史と文理学部資料館の所蔵資料を紹介しました。本学部は前身の高等師範科・法文学部・予科文科を含めて長い歴史があります。また、その間に文学・歴史学・考古学・地理学・自然科学に関する資料を収集して、その保管・研究を行ってきました。こうした本学部と資料館の歩みを、所蔵資料から知るところを目的として本展示会を開催しました。

令和五年度 日本大学文理学部資料館展示会

## 伊能図でみる江戸後期の日本の景観

開催：五上・中島はつらな伊能忠信(長岡)「関東」(本学所蔵)複製、原簿：イブ・ハイデルベルグ、NISHIMURA長谷川「日本書紀(長岡神社)」複製、中島はつらな伊能忠信(長岡)「関東」複製、長岡(長岡)「日本書紀(複製)」複製、中島はつらな伊能忠信(複製)複製、複製資料「長岡神社」

開催期間：令和5年5月20日(土)～令和5年7月20日(木)  
(図書館1階)

平日：10時～17時  
土曜：10時～13時  
休館日：日曜日、祝日  
※7月16日(日)はオープンキャンパスのため閉館

入館料：無料  
主催：日本大学文理学部  
日本大学文理学部資料館

会場：日本大学文理学部資料館展示室 (図書館1階)  
所在地：〒156-8550 東京都世田谷区板橋上木3-25-40  
TEL / FAX：03-5317-8590 (資料館事務室直通)  
交通案内：京王線 板橋上木駅より徒歩8分  
京王線・東急世田谷線 下高井戸駅より徒歩8分

日本大学文理学部資料館  
Nihon University College of Humanities & Sciences MUSEUM

### 【展示会名】

伊能図でみる江戸後期の日本の景観  
主催：日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

## 【開催期間】

令和5年5月20日(土)～7月20日(木)  
(52日間)

## 【展示会の概要】

伊能図は、伊能忠敬(1745～1818)の測量隊が1800(寛政12)年～1816(文化13)年にかけて全国を測量し作製した日本地図の総称で、一般的には、縮尺の違いによって大図(1/36,000)214枚、中図(1/216,000)8枚、小図(1/432,000)3枚に分類されています。米国議会図書館蔵の大図「アメリカ伊能大図」(模写本)207枚とイブ・ペイレ氏旧蔵(NISSHA株式会社現蔵)の中図「フランス伊能中図」(副本)8枚は、それぞれ残存枚数の多さ、仕上がりの高さなどから貴重な存在として知られています。日本大学文理学部では、2004(平成16)年の「伊能図の世界 あるく はかる つくる—伊能忠敬の日本図展」展(主催:日本大学文理学部)開催に当り、「アメリカ伊能大図」(彩色復元)と「フランス伊能中図」のレプリカを全葉購入し、国立歴史民俗博物館所蔵・海上保安庁水路部所蔵の伊能大図、伊能洋家所蔵の関連資料(現国宝)とともに展示しました。今回の企画展では、仕上がりの良い「フランス伊能中図」全葉を中心に、「アメリカ伊能大図」を交えて展示しました。

## 【図録】

『伊能図でみる江戸後期の日本の景観』  
編集・発行:日本大学文理学部資料館  
発行日:令和5年5月20日  
A4、フルカラー、8頁、800部発行

令和5年度 日本大学文理学部資料館展示会

## 記憶画でみる 昭和の風景 —田園の中の文理学部界限



令和5年10月30日(月)～12月9日(土)

**入場無料**

日本大学文理学部資料館

開館時間:平日10時～17時(土曜13時まで)

休館日:日曜日※11月5日(日)は開館

主催:日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

共催:NPO法人すぎなみムーサ

## 【展示会名】

記憶画でみる昭和の風景

—田園の中の文理学部界限

主催:日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

共催:NPO法人すぎなみムーサ

## 【開催期間】

令和5年10月30日(月)～12月9日(土)  
(37日間)

## 【展示会の概要】

本年、関東大震災から100年の節目として、さまざまな媒体を通じ、江戸期以来の町並みが失われた様子が紹介されてきました。また、その後の太平洋戦争や高度経済成長などの画期を経るごとに、昭和期の世田谷も大きな変貌を遂げてきました。その初期に設置された現文理学部とその周辺域の様相は、時代ごとの地図によって垣間見ることができます。しかし、そ

の詳細は残存する記録が少なく、実像を示すには限られた資料に頼らざるを得ません。

そこで本展では、下高井戸駅近くの老舗生花店「花いそ」元店主の芹沢政一氏による、昭和20～30年代の地元地域の記憶画を展示しました。それらは、激動の時代を明るいタッチでユーモラスに表現されたポンチ絵風のイラストで、詩情豊かな文章が添えられた資料です。

## 【 目 録 】

『記憶画でみる昭和の風景

—田園の中の文理学部界限』

編集・発行：日本大学文理学部資料館

発行日：令和5年10月30日

A4、フルカラー、8頁、1000部発行



令和5年度 日本大学文理学部資料館 展示会

## 記憶と記録の クロスロードとしての 哈爾濱

—黒崎裕康コレクションの世界—



2024  
1/10 (水)  
▼  
1/25 (木)

開館時間：平日10:00～17:00  
土曜日は13:00まで  
休館日：日曜日  
入館料：無料  
主催：日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館  
協力：日本大学文理学部史学科

日本大学文理学部資料館  
Nihon University, College of Humanities & Sciences, MAJ2018

## 【 展 示 会 名 】

記憶と記録のクロスロードとしての哈爾濱

—黒崎裕康コレクションの世界—

主催：日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

## 【 開 催 期 間 】

令和6年1月10日(水)～1月25日(木)  
(14日間)

## 【 展 示 会 の 概 要 】

本展は、中国東北地域の哈爾濱に関する研究者である黒崎裕康氏の業績を偲び、そのコレクションの一部を紹介するとともに、黒崎氏が自らの後半生において追究された「記憶」と「記録」との対話に焦点を当て、個人史および日本近代史の中で、どのように哈爾濱を位置づけようとしたのか、その軌跡の可視化を試みるものです。

黒崎氏は幼少期を哈爾濱で過ごされたが、その「記憶」は戦後長い間封印されていました。

しかし、哈爾濱再訪を契機として、黒崎氏は「人生の原点」とする哈爾濱に関する資料収集および研究を本格的に始められました。それから毎年のように哈爾濱へ渡航され、コレクションの充実ぶりは目を見張るものがあり、重厚な研究書も3冊刊行されています。その足跡は、「記憶」の封印を解く旅であり、また「故里としての哈爾濱」を取り戻す旅でもあり、哈爾濱に在住した経験を持つ最後の世代としての立場から様々な「記録」に向き合い、「日本人にとって哈爾濱とは何であったのか」という課題への回答に迫ろうとする営みでもありました。

黒崎氏は激動の時代を生き抜き、2022年にご逝去されました。しかし、黒崎氏の業績は色褪せることなく、これからの時代を生きる私達に、あらためて前述した課題を問いかけています。

日本大学文理学部では、研究活動の一つとして戦前・戦中期の「満蒙」関係資料の収集を精力的に行っており、その過程で黒崎氏より多大なるご助言および資料のご寄贈を受けました。日本大学文理学部資料館における最初の「満蒙」関係展示会として開催された「写された満洲—デジタルアーカイブから甦る哈爾濱都市空間—」（2009年10月開催）は、同氏の全面的なご協力がなければ実現しえなかったものです。

本展を通して、黒崎氏の本学へのご高配にあらためて感謝の意を示すとともに、「記憶」と「記録」が交差する〈場（トポス）〉で、黒崎氏が発した問いの持つ〈重さ〉に迫って行きました。

## 【 図 録 】

『記憶と記録のクロスロードとしての哈爾濱  
—黒崎裕康コレクションの世界—』

編集・発行：日本大学文理学部資料館

発行日：令和6年1月10日

A 4、フルカラー、32頁、1800部発行



## VIII イベント活動報告

---

資料館では、文理学部が所蔵する貴重な資料を広く一般の方に公開するため、夏季・秋季オープンキャンパスと大学祭である桜麗祭の開催にあわせて、毎回展示会を行っています。



## IX 学芸員調査研究活動

---

博物館法第四条4項に「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」と定められています。したがって、当資料館の学芸員も、展示業務だけでなく、調査研究等の活動を行っていく必要があります。

### 【論文】

平石冬馬2024「日本大学文理学部資料館の来館者数の分析—大学博物館の構想と実像—」『研究紀要』第107号日本大学文理学部人文科学研究所

### 【資格】

平石冬馬 文化財虫菌害防除作業主任者 2024年4月1日 取得  
公益財団法人 文化財虫菌害研究所

## 【今年度開催予定の展示会】

- ①はじめての文理学部&資料館2024（令和6年4月1日～5月31日）
- ②『甲陽軍鑑』と軍学書・軍記物―酒井憲二旧蔵書―（令和6年6月14日～7月22日）
- ③地図・写真展（令和6年9月22日～10月15日）
- ④「満蒙」展（令和6年10月26日～11月30日）

※展示会の詳細につきましては、チラシ・ポスター等の広報物や、資料館ホームページ（<https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/museum/>）等でお知らせいたします。

## 【利用案内 MUSEUM INFORMATION】

### 開館時間

平日 10:00～17:00

土曜 10:00～13:00

### 休館日

日曜・祝祭日、大学の定める休日、館内整理日、夏期・冬期・春期休暇期間

### 観覧料

無料

※展示会により開館時間や休館日が異なる場合がございますのでご了承下さい。

詳細は、各展示会のチラシ・ポスター、資料館のホームページ等でお知らせします。

## 【お問い合わせ CONTACT US】

### 所在地

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

電話・FAX 03-5317-8590

URL <https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/museum/>

## 【交通案内 ACCESS】

### 京王線をご利用の場合

桜上水駅または下高井戸駅下車 徒歩8分

### 東急世田谷線ご利用の場合

下高井戸駅下車 徒歩8分

『館報』 令和5（2023）年

発行日 令和6（2024）年7月1日

執筆 日本大学文理学部資料館

編集 平石冬馬

発行 日本大学文理学部資料館

■本誌記事の無断転載は固くお断りします。

